

表一6.9.2(5) 変更区域内において確認された重要な種の分布及び生息状況に基づく変化の程度の検討(動物) (その1)

++ : 2~10個体未満 +++ : 10~100個体未満 ++++ : 100個体以上

No.	分類群			国外、国内、沖縄県内における分布状況 (亜種については同一亜種の分布情報)			石垣島内における生息状況		注6 現空港予定地関連調査					重要な種の分布及び生息状況の変化の程度		指定及び選定状況					
	区分	目	科	種	注1 国外	注2 国内	注3 沖縄県	注4 石垣島内	注5 石垣島内での生息状況 ランク	変更区域外の洞窟	変更区域内の洞窟	変更区域外の確認	航空障害灯予定地での確認	空港施設予定地での確認	合計	注7 法的規制	注8 種の保存法	注9 環境省	注10 その他 沖縄県		
																				天然記念物	環境省
1	爬虫類	カメ	イシガメ	セマルハコガメ	-	-	石、西	島北部平久保半島を除き、やや広範に生息するものと推定される。オモト連山の山裾には生息。宮良川～轟川中下流周辺では広く生息確認されている。平久保半島などの北・東部は消失。個体数は少ないものと推定される。急速な減少が示唆されている。 [環境庁RDB:定量分布情報は全国値]石垣島の分布面積は30km ² 未満、西表島で250km ² 未満。(分布情報:2次マッシュ数6,3次マッシュ数19)	B			8 (うち死体1)	7	1 (死体)	16 (うち死体2)				国	II	希少
2		トカゲ	トカゲ	キシノウエトカゲ	-	-		広範に生息するものと推定される。宮良川～轟川周辺では広範に生息確認されている。個体数は普通と推定される。外来種のイタチが放逐された他の島々では壊滅状態である。	B			4	1	3 (うち死体1)	8 (うち死体1)				国	準	
3			ヘビ	サキシマオオヘビ	-	-		(宮諸*)、石、西、波、小浜島、竹富島 やや広範に生息するものと推定される。宮良川～轟川周辺では広範に点在確認されている。個体数は少ないものと推定される。生息密度は低いとされる。	B			4	1	4 (うち死体1)	9 (うち死体1)				準		
4	昆虫類	トンボ	モノサシトンボ	マサキリモントンボ(幼虫)	-	-	石、西	広範に生息すると推定される。分布域は減少傾向。個体数は普通と推定される。	C					+++	+++					希少	
5			ミナカワトンボ	コナカワトンボ(幼虫)	-	-	石、西	広範に生息すると推定される。分布域は減少傾向。個体数は普通と推定される。	C					1	+++					希少	
6			サナエトンボ	ヤエヤマサナエ(幼虫)	-	-	石、西	広範に生息するものと推定される。分布域は減少傾向。個体数はやや少ないと推定される。沖縄島に生息し、生活様式の類似することが想定される近縁種のオキナフサナエは生息環境は限られるもの各所にみられ、個体数はやや少ない。	C					+++	++++				準	希少	
7			エゾトンボ	ミナミトンボ(幼虫)	台	九(南端)、種、トカラ中之島	石、西	広範に生息するものと推定される。宮良川～轟川では生息は局所的(轟川のみ)。個体数はやや少ないものと推定される。沖縄本島に生息し、生活様式の類似することが想定される近縁種のリュウキュウトンボは、各所にみられ、生息地での個体数はやや少ない。	C			1		1	++					希少	
8		カメムシ	タイヨウチ	マダラアシミスカマキリ	台、マレーン、インドネシア	-	宮(*)、石、西、小浜島	局所的に生息するものと推定される。石垣島での減少が指摘。個体数は少ないと推定される。	A					1	+++				準	希少	